日本共産党
民主苫小牧
発行 日本共産党苫小牧地区委員会
〒053-0855 苫小牧市見山町2丁目2－6　電話 56-5002 Fax 56-5086
日本共産党のホームページ http://www.jcp.or.jp/
苫小牧地区委員会のホームページ http://jcp-tomakomai-shigidan.com/
eメールアドレス commun@rose.ocn.ne.jp

休日当番病院・医院

11月1日（日）
◆内科　夜間・休日急病センター　旭　町　32-0099
◆外科　とまこまい脳神経形外科　光洋町　75-5111
◆歯科　みかみ歯科・矯正歯科医院　旭　町　35-3939

11月3日（火）
◆内科　夜間・休日急病センター　旭　町　32-0099
◆外科　勤医協苫小牧病院　見山町　72-3151
◆歯科　三輪歯科医院　本　町　32-3247

●診療時間：内科＝9時～翌朝7時、外科＝9時～17時、歯科＝9時～12時。変更への対応ができてませんので、ご利用の際は電話でお確かめ下さい。

法律相談
しんぶん赤旗読者のための
親身な相談で定評
11月26日（木）
横山 浩之 弁護士
（定員になり次第締め切ります）
日本共産党苫小牧地区委員会
苫小牧市見山町2-2-6　申込56-5002

◆日本共産党創立104周年。歴史の岐路に希望の明日を切り開きます。

白老でアイヌ先住権考える

歴史を正しく知ることが偏見や誤解ただす力になる

紙・岩渕氏　政府の謝罪と権利回復訴える



日本共産党苫小牧地区委員会と北海道委員会は10月12日、白老町で「アイヌ民族の先住権を考えるつどい」を開き、130人が参加しました。

日本共産党の紙智子前参院議員（共産党先住民《アイヌ》の権利委員会責任者）は、「アイヌ民族の歴史を正しく知ることが、偏見や誤解をただす力になる」と強調。明治政府による植民地化と権利回復のたたかい、アイヌ遺骨問題、先住民族の権利に関する国連宣言、日本共産党綱領などを紹介しました。

「国連宣言で、先住民に対する同化政策への謝罪、権利回復する動きが世界で広まっていますが、2019年制定の日本のアイヌ施策推進法には、謝罪がなく、先住民族の権利（自決権、土地権、生業の権利）の規定もありません。5年後に見直すと規定されていましたが、その動きもない」と批判し、「国連宣言にそった先住民の人権尊重への前進のための取り組みをはかりたい」とのべました。

植木哲也元苫小牧駒澤大学教授は、北海道大学の前身の札幌農学校や北海道帝国大学について、「開拓」と「植民」を中核に据えた学校だったと指摘。「《北海道は開拓者の大地》と言われますが、アイヌ民族は存在しなかったようにして、入植者が未開だった北海道の大地を開拓したのだと、歪めた表現です。アイヌは先住民族ではなく、時代に取り残された人々にすぎないともしています。そうした意識の背後に、北大の教育や研究があったのです」と指摘しました。

「アイヌネノアンアイヌ」の木村二三夫代表は、父親が経験した強制移住の歴史を語り、大須賀るえ子さんは主催するアイヌ語教室の取り組みを報告しました。

白老アイヌ協会の山丸和幸理事長は、「アイヌだけの問題ではない。日本人の支えが必要です」とのべました。

日本共産党の岩渕友参院議員が閉会のあいさつをしました。

IRカジノ誘致　やめさせよう

今月28日学習会　子どもたちの未来にカジノはいらない



市のIR関連予算計上に抗議する市民ら（3月9日）

北海道は9月議会で、カジノを中核とする統合型リゾート施設（IR）の誘致に関する「基本的考え方」を改定し、道内の候補地を特定しませんでした。

今年度予算に1100万円の海外視察を含む誘致費用を組んだ前のめりな金澤俊市長は、「候補地に選ばれるよう進めていく」と9月の総合開発特別委員会で強弁しました。来年5月から11月の期間に政府に申請する必要がありますが、北海道は慎重な姿勢を示しており、来年の申請に間に合わない可能性があります。

「カジノ（賭博場）誘致に反対する苫小牧市民の会」は今月、アイビープラザで、「総会・学習会」を開催し、反対運動を強めます。講演は「ギャンブル依存症の怖さ」と題し、ウトナイ病院の片岡昌哉理事長・医師が語ります。

北海道の有識者懇談会ではギャンブル依存症への懸念が示され、道内の依存症患者は7万3千人とされ、治療につながった人は300人程度です。専門病院も少ないなかで、依存症患者の治療にあたっている現場から、依存症の怖さと実態をお話しします。

カジノ誘致を多くの市民の力で跳ね返すために、皆さんの参加を呼びかけています。講演終了後に、総会を開き、今後の運動方針を確認します。

★　★

▼11月28日（土）午前10時　アイビープラザ講習室
▼参加費　無料
▼問合せ　小形さん　電話　090・9754・8460

核兵器禁止条約の批准を

大軍拡反対！外交で平和を

日本共産党

ほんの紹介

◆心をうるおす絵本50選　大門みきし著　（新日本出版社）　1870円（税込）　絵本に魅せられ、絵本の伝道師と呼ばれる大門参院議員による大人のために選んだ50作品の絵本ガイドブックです。絵本は世界を変えられると勧めています。

いわさきちひろ
大判カレンダー2027
1650円（税込）
好評発売中！
取扱：わかくさ書店
電話　56-5002

灯油高と供給確保 道民支援急げ

共産党道議団 道に暮らしと営業守る緊急要請



日本共産党北海道議会議員団らは10月20日、灯油の価格高騰対策と供給確保に関する緊急要請を北海道に対して行いました。道議団の真下紀子団長、丸山はるみ幹事長と、中村みなこ旭川市議、平岡だいすけ元札幌市議が、水口伸生経済部長に要請書を渡し、懇談しました。

道内では厳冬期を前に、イラン戦争に伴う原油価格の高騰などの影響で、コープさっぽろの札幌地区の灯油定期配送価格が1㍑あたり159円と前年同月比で35円値上げとなっています。

要請書は、●道として国の対策も踏まえ道民負担の軽減をはかる ●各自治体の「福祉灯油」への支援対象拡充 ●農林漁業、中小企業、医療・介護・福祉事業所などへの影響調査と支援を行い地域の産業と経済を守る――などを求めています。

水口部長は、「国などと23日に連携会議を開催し、供給確保と、価格安定に取り組む」と答えました。

真下団長は、「命にかかわる事態で、道民の暮らしと営業への影響も深刻です」と強調。丸山幹事長は、「国の対策が遅い。月に1万から2万円もの負担増です。十分な支援をお願いしたい」と訴えました。

中村市議と平岡元市議は、情報発信と北海道経済を回すための対応を求めました。

灯油高騰 命にかかわる

岩渕参議 負担軽減策を政府に要請



灯油価格の高騰を受けて、日本共産党の岩渕友参院議員は10月20日、冬場を前に早急な対策をとるよう政府へ要請しました。寒冷地の生活に欠かせない灯油の高騰は、「命にかかわる重大な問題」だとして、負担の軽減策を求めました。

北海道消費者協会によると、中東情勢の影響などから道内の灯油の平均小売価格は、今年4月以降、1㍑あたり140円台と高止まりが続き、10月は過去最高の157円台へ高騰しています。同協会や北海道生協連、北海道知事らは先月、政府への緊急要請を行い、灯油の安定確保を求めています。

岩渕議員は、灯油の高騰幅は昨年よりも大きく、「北海道では、すでに大問題になっている。灯油は生活者だけでなく、農業、病院、介護施設などでも欠かせない。まさに死活問題」だと訴えました。

経済産業省の資源エネルギー庁の担当者は、灯油の供給に偏りや流通の目詰まりが出た場合、石油元売り事業者から直接販売する「灯油直売スキーム」を新設したと話しました。

岩渕議員は、低所得世帯などが灯油を購入する際に市町村が助成する「福祉灯油」事業を確実に実施するためには、国の財政的支援の確保と拡充が必要だと強く迫りました。

政治革新の道しるべ、真実つたえ希望はこぶ
しんぶん赤旗
日刊●月3497円
日曜版●月990円

第57回　わたぼうし　29日

うたごえ広場

苫小牧うたごえサークル「わたぼうし」は今月29日に、『第57回うたごえ広場』を開催します。

苫小牧で開かれた「北海道のうたごえ祭典」で活躍し、長野で行われる「日本のうたごえ祭典」に推薦された『わたぼうし』の恒例のうたごえ広場です。「夜明けの歌、さんぽ、あの素晴らしい愛をもう一度」など懐かしい歌など交えて、たくさん歌いましょう。

●11月29日（日）開演午後2時
苫小牧活動センター　多目的ホール
●入場料　無料
●連絡先　長谷川さん
☎ 090・6212・6708

◆「生食用ジャガイモの輸入解禁手続きの中止を求める要請」署名にご協力をお願いします。



こんにちは
小野寺ゆきえです

アイヌの存在消す歴史 過去に目を背けない

先月白老町での「アイヌ民族の先住権を考えるつどい」に参加しました。2019年にアイヌ施策推進法が制定され、アイヌ民族は先住民族であることが初めて認められましたが、先住権は認められてません。ここに大きな課題があります。

アイヌの方々から、「《言葉》という大切なアイヌ文化が奪われてしまった」「研究のために多くのアイヌの遺骨が掘り起こされ採取されたが、わずか5%しか返還されていない」「国では、先住権の議論が進んでいない」ことなど、貴重なお話しが聞けました。

差別についても語られました。「研究者は動物の研究をすることで、動物の供養祭をするが、アイヌの遺骨を研究しても供養をしない」「アイヌは動物以下だと。8歳の時から入植者（和人）の家に雇われ、一日中こき使われ、食べ物は犬猫も食べないようなものを与えられた」と。

アイヌの研究で歴史に詳しい元苫小牧駒澤大学の植木哲也教授の指摘には驚きました。北海道の歴史は、アイヌ民族の存在を消した歴史だということです。アイヌの生活も文化も生業を奪った《同化政策》は、アイヌ民族の存在を消すことが狙いだったというのです。

アイヌの方は発言の冒頭、「過去に目を背ける者には未来はない」と言っていました。過去の事実の積み重ねと同時に、語られている歴史が本当に正しいのか、しっかり学ぶことが一番大事だと感じました。「過去に目を背けないこと」は、すべてのことに共通し、侵略戦争を美化する政府見解もそうです。

「つどい」には、紙智子さんや岩渕友さんも参加しました。これまでアイヌ問題を国会で何度も取り上げてきた紙さんから、岩渕さんにバトンが引き継がれたように感じました。正しい歴史認識の下、アイヌの方々との共同の力で前に進めていきたいと思いました。

小野寺幸恵（おのでら・ゆきえ＝日本共産党苫小牧市議会議員・市議団長）